

PCB 廃棄物処理施設の操業状況（平成 21 年度）



日本環境安全事業株式会社(JESCO)は平成22年3月31日、平成21年度ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会を開催し、平成21年度におけるPCB廃棄物処理施設の操業状況を公表しました。

全国5箇所の事業所(北海道、東京、豊田、大阪、北九州)における平成21年度(平成21年4月～平成22年2月)の合計処理量および操業開始からの累計処理量は、以下の通りです。

【平成21年度(平成20年度実績)】

- ・トランス類1,366台(1,147台)
- ・コンデンサ類19,776台(14,433台)
- ・PCB油類589本^{*1}(379本^{*1})
- ・PCB分解量927.0t(655.4t)

【累計(登録台数に対する処理進捗率)】

- ・トランス類約4,200台(24.2%)
- ・コンデンサ類約51,000台(18.8%)
- ・PCB油類約1,400本^{*1}
- ・PCB分解量2,300t(12.6%^{*2})

※1：ドラム缶(200L)により搬入及び処理された数量

※2：PCB分解量の処理対象量は、推測値による

事業所により操業開始以来順調に処理が行われている事業所や、PCB漏洩事故などにより操業停止した期間がある事業所など状況は様々ですが、現在すべての事業所が稼働しています。

また、北九州事業所では平成21年7月よりPCB汚染物等の処理を開始しています。年々処理数は増加傾向にあるものの、処理の進捗状況は平均で登録台数の30%未満となっています。今後、各事業所において処理量の増加に向けた対策を行っていく予定とのことです。

当社では、絶縁油中のPCB分析について多検体、短納期の体制で行っており、多くのお客様からご依頼を頂いております。絶縁油中のPCB分析は、お任せ下さい。

資料 2010年3月31日付 日本環境安全事業株式会社

平成21年度ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会資料

品質検査箇所 会田祐司